



18
1245
8

開卷驚奇俠客傳第二集卷之三

東都 曲亭主人編次



第十五回

齊統歌を遺しと助則隱逸を知る
臙帯歳と志しと老樹以性を話せ

再説達小六も日屬心を盡す。看病竟その甲斐もあらず。庶吉呼吸絶果て。吸活
まごも心せぬ顔つとら目成と。嗟嘆小堪む。命の長短は過世小直たふ
定數ありとも。幸ひもて良醫小遇ハ。齡を延ることもあらず。折も折と。重山層山半の
このまよりの。旅宿ふあられ。岐扁の術小價く。霜露の病痾も後終小救ひ。かたき
まご悔て及ぬと。俺料も目四郎の幫助ふ。安同們も。隨小敷も果せ。小の
軟ひと云と。述る聞さく。又俺と與小自殺と。那俠者の落胤も少年を。久後まご
由身小從て。苦樂と共侶小せ。おくる末け。飛會の鶉の嘴飲

大正十三年三月一日

虫踏ふ死別も悲しけれ。何れに何れをせん。とて尋思の留は、憂
 胸の敷を遣はさるる。折る小六を懐より。香氣忽地馥郁と。熏る初てあつた。
 噫。忘れさるる。あれ。比那仙嬢の夢中。授けぬ。仙丹の覺ての後。俺懐に在り
 ける。徳而歌。告あかす。末小六。その黄氏。小六。病着。劇し。ええ。うら。驚。驚。う。古。又。小
 紛れて。那仙丹。と。鏡。や。久。く。も。思。ひ。を。出。せ。外。小。茶。と。微。め。の。珠。玉。と。忘。れ。の。尾。研。と。愛
 去。和。氣。丹。波。と。訪。ぎ。と。博。乱。湯。と。市。曾。海。田。舎。見。中。似。さ。け。の。然。る。也。も。那。仙。丹。の。今
 ま。失。せ。さ。あ。り。け。る。只。の。残。香。の。さ。る。と。獨。語。の。懐。と。那。這。と。搔。撈。の。幸。い。く。仙
 丹。の。折。紙。の。包。い。て。落。て。左。の。袂。に。在。り。し。稍。合。出。し。ち。戴。て。原。這。茶。の。三。粒。を
 せ。し。の。一。粒。の。俺。夢。中。の。腹。試。ま。り。し。よ。記。憶。日。屬。十。倍。考。え。と。夢。中。似。さ。其。麼
 ち。あ。と。度。吉。の。病。着。用。へ。り。し。と。忘。れ。の。只。是。他。が。命。運。の。既。不。盡。さ。る。後。遮。莫。枯。る
 苗。も。活。の。雨。露。の。更。ふ。の。要。る。と。右。と。伸。し。且。度。吉。が。胸。膈。頭。と。那。這。と。折

試る小全身既小胸冷されども。中腕の温之然。然。とて。遠く。身。起。り。提。桶。水。
 茶碗の汲り火を鑽被て。然而。那。仙。丹。一。粒。を。撮。合。の。乘。時。念。と。度。吉。が。口。中。小。水
 の。共。小。水。入。れ。て。の。吭。と。拊。胸。と。捺。る。小。茶。の。胃。中。小。届。り。け。ん。現。死。と。起。し。生。小。回。せ。床。神
 茶の效時。寝さ。度。吉。の。忽。然。と。甦。生。の。眼。と。開。て。身。と。起。さ。せ。程。小。涎。沫。を。吐。死
 汗。出。り。心。地。爽。然。ふ。る。小。六。今。這。仙。丹。の。奇。効。と。感。を。不。勝。の。歎。へ。り。正。首。勤
 して。然。而。強。と。造。て。薦。め。り。度。吉。の。二。枕。吸。り。て。その。宵。の。熟。睡。と。た。り。け。り。詰。言。未。至。り。て。い
 と。あ。の。病。着。痊。り。果。て。小。六。對。して。看。病。の。軟。じ。と。演。る。と。登。時。小。六。を。度。吉。の。那。仙。丹。の
 奇特の顛末。ある。日。獨。後。醍。醐。帝。の。山。陵。に。詣。り。折。憶。も。假。寐。ある。夢。中。小。女。仙。の
 招。れ。て。告。示。さ。れ。し。言。の。よ。と。箇。様。々。と。報。知。り。し。と。那。折。小。授。け。ら。れ。る。仙。丹。の。三。粒。を。り。し。と
 一。粒。の。女。仙。の。薦。め。不。儘。し。七。夢。中。小。喫。り。餘。の。三。粒。の。後。々。小。必。用。る。と。あ。ん。と。い。は。し。し。と
 ち。き。う。ち。忘。れ。と。和。郎。の。呼。吸。絶。ち。折。那。仙。丹。の。香。氣。よ。り。て。必。出。し。試。み。哺。せ。し

よる胃中が届かぬ。今回陽の秋びある願ふ人の病厄も亦是時わたり日敷ありて死に至るもの
 活るものも必遅速あるらん然る初より那仙丹を用ひて去りて最後用ひて即效あり
 是も亦神仙孃の逆測らせぬひる方便の秋と町寧小有はるよりと説示せば庶吉の之
 感佩をて席と避け額とて小人何等の過世ありて後半月あまりの大病と看とれはる
 のまねを介する仙某の奇效ありて再生ある身の秋びは皆是君の徳に憑る一世の洪福
 何の秋られ小優と小宛仰げは高給今番の御恩の吉野の山も敷あるまのて大馬のち
 らと竭とて報ひまらんと念の他一更るくは合とをよりのりまきく小六が與心を
 いく最老実く仕付け既ふ春もなな二月の初霽ふりかば山櫻咸開初く日と母の
 登山の人より登時小六を起すの準備と更ふとて庶吉の耳くやう御向の俺夢小
 又えのひる仙孃の示現ありて先帝の大御靈は這吉野の山陵ふりまきとて
 よる快這山と立出く亦復他御不遊歴せんと思ひかけは仙孃の然るを思はせり

必障りありて用花時候まるるをて示され果と錯はるその折去向と向する
 神風の伊勢小赴け那里今今南朝の北畠氏國司より憑心してあるまきとて思ひかけ
 る故人の遇んと誨めいどあり加禰去歳の夏俺養育の義父野上大人が你的
 実父目四郎の密談の折竊聞たり小俺身と延と遣えとのれ去向の伊勢を給
 と云恰とのひ今ゆる他所を求むとて去りて那地もべとて去るるさう藏王堂寺の坊
 主の歇舎と返りてその詰日庶吉と俱と前路も櫻開く初瀬越とて遠く旅の
 あれと二三日這首小立より那首は遊びて第四日の未牌時候伊勢小路と此と出坂の
 麓の里の石名原うち踰来ても未暮暮日水元甲斐と飼阪の里稍晝処を過る程小舊
 たる一座の佛堂ありけり主僕存一杖入りてこれが靈驗馬頭堂と寫しる扁額を
 掲げり當下小六を庶吉と俱に觀世音と伏拜とて退くとてかまき堂の傍小盆
 池あり池の頭の桜が下の葎篋を横且する茶店ありて這店舗と成一個の老若が

柱の倚れ打腕より小六と這里まで多氣の城下の路程も尋ねて北畠家の動靜も
 問ふととひか平懸んとひきか登見の尻をうち搦まが麻吉も下坐る登見の寄る休
 息を登時翁の客と相て火と吹起し茶をき復して薦めて去向を問ふは這頭へ通
 北畠満泰卿の采地も多氣の城への路の程一里半とゆえり柳北畠之位右衛門督源
 氏満泰卿の南朝棟梁の忠臣のける中院一品入道親房公の曾孫も三位右衛門督
 兼伊勢守頭泰卿の嫡子も乃祖北畠親房公の曾孫も忠誠諸葛武侯の
 風の息女の後村上天皇の立あひし朝野の尊敬大かたねと嘯と吐て土の降り
 髪を握り客と迎へし周八日異なる君補佐と私る戦馬の間小年と歴て勲功
 多くをりければ正平七年春正月准后の宣下も蒙りぬ是より先與國元年の常陸の
 小田の城在りし神皇正統紀五巻と撰まぬの次の年春二月小職原抄巻と編述あり
 の七末代の龜鑑とせ學術高明推て知る後醍醐天皇の元徳二年の病ありし判長友

夏氣の原
 夏氣郡本
 あり和名
 夏氣郡本
 夏氣郡本

法名宗元とまうせは是より二十許檢と経て後村上天皇の正平十四年の薨りぬ
 享年六十七歳とせ惜れり精忠節義の獨這殿のまゝ見孫各々朝家の與り
 死力を盡さばのありし嫡子中納言頭家卿の足利氏と數戦の後塚の浦の役も年二十
 又二つ。竟陣歿ありける時延元三年又親房公舎弟にける權中納言頭時卿
 并小五男太宰大貳信親卿時權中納言正平十二年秋七月筑石の戦ひ陣歿のつ
 えこの時頭時三十九歳信親の二十八歳を死せし中親房公の三男右大臣頭能公も
 伊勢州一志郡三氣の城に在りし多氣の御所と稱せし頭能の嫡子左中将頭泰
 卿の正平二十一年の伊勢國司補せられぬ時後三位右衛門督天授二年の權中納
 言弘和二年の從二位の亞相の昇進ありし元中元年夏四月四十五歳と薨りぬ
 而頭泰の嫡男親能の時至て勢ひいさ衰へし伊勢四郡大和一郡伊賀一郡志摩
 二郡約四個國十八郡を管領してその身の多氣の城に在りし後阿射賀と嫡子頭雅の大

河内の城小在り。舎弟俊泰の垣内小在城也。這宅阿射賀王丸関上野神戸の城中。関の
 一黨神戸峯鹿伏兔木造川北柘植山路阿保の二族光黨譜弟恩顧の志程
 故國司顯泰卿の時より。譬や唐の節度使の如く。実小南朝一方の捍城也。あ
 ければ。元中九年の冬。南北兩朝御合體の折前將軍相國入道足利。北畠との宜く
 沙汰。今も伊勢の國司。親能の亦も恩と感して。太上皇。後龜の太子。松平の
 今上。後小松帝の東宮。立すねんと。誓言。約束。足利家の恨も。送さる。萬葉の
 意。お違ふ。と。町。寧。の。せ。れ。義。滿。も。亦。被。び。て。好。も。結。ん。ぶ。諱。の。一。字。或。授
 け。け。り。あ。れ。よ。親。能。の。名。と。滿。泰。と。改。め。て。小。倉。宮。後。龜。山。天皇。の。御。位。小。即。め。ん。日。果。敢
 る。も。等。よ。外。他。支。も。多。く。年。來。過。さ。れ。る。間。話。休。題。却。説。小。六。を。飼。阪。の。里。稍
 盡。處。る。馬。頭。堂。の。境。内。の前。茶。店。小。休。て。茶。店。の。翁。小。這。處。も。多。氣。の。城。も。路。程
 と。那。里。の。容。子。と。向。け。る。小。羽。答。て。滿。泰。卿。の。阿。射。賀。を。居。城。小。去。ぬ。ん。と。去。歳。より。城

普請の御沙汰。あれも。今も。多氣小御座。又。子伊勢の御曹司。顯雅君の大河内の
 城小在。約莫。這面。城下の。敏。目。昔。あ。ら。う。と。い。け。り。小。六。を。れ。を。さ。る。傍。の。柱。を
 瞻。仰。小。柱。小。二。箇。の。針。を。打。て。舊。る。扇。を。拭。る。最。美。の。迹。也。学。び。ぬ。も
 る。足。る。と。知。る。親。の。書。よ。む。子。の。あ。い。五。柳。隱。士。と。あ。り。け。れ。後。々。連。の。小
 ち。吟。あ。る。博。士。の。歌。も。萬。葉。集。第。五。卷。の。山。上。憶。良。の。歌。小。銀。も。あ。る
 絲。の。玉。の。何。せん。あ。る。た。く。子。小。あ。ら。ゆ。め。と。詠。あ。り。取。れ。る。憶。良。が。歌。の。子。玉
 と。世。の。常。言。の。起。本。あ。る。べ。し。又。這。歌。の。情。異。子。の。世。の。人。の。皆。奉。上。そ。が。中。小。不。肖。の
 賢。る。の。極。に。父。賢。小。子。も。賢。る。が。親。の。書。を。よ。く。讀。て。志。を。紹。ぐ。こ
 あ。ん。を。真。の。宝。と。い。詠。の。則。述。懷。也。高。情。也。知。れ。る。這。諷。咏。家。と
 何。処。の。人。と。問。へ。小。羽。の。真。実。立。て。原。來。あ。ん。の。歌。も。好。き。詠。の。末。を。あ。ん。と。い。這。扇。の
 歌。主。の。人。と。い。は。れ。る。話。説。の。小。去。向。と。言。は。ぬ。話。一。票。さん。あ。ん。の。躬。て

過のめん。這里よりのヨミを乳の三約十町をらる。字と五柳と喚做去瘦村の稻城右膳
 守延との學者氣質の退禄人あり原の國司の御家臣也。俸禄三百貫成賜す。南朝北朝
 和睦あり比國司の京都前將軍家の諱の一字と賜す。満泰と改めゆ。守延主酷く諫め
 る。その議とす。京と京と京と。朋輩の諛言也。野心あり。野心的実をなされ。鏡
 罪をえ。遂に那身と禁錮せられ。百日あり。不及ひか。野心的実をなされ。鏡罪を
 宥られ。身の暇と賜す。徳而稻城守延主と。原妻子と推乃て。那五柳の退隱の
 字と大作と改め。其頭の里の総角の讀書の蹟と教ると。十檢許と送りけり。
 文学武藝大か。る。ね。京鎌倉不赴。仕官と未め。ひ。世渡。易く。俺の
 國司の譜第。忠を盡して用ひられ。冤屈の放。二君の仕。細煙。立
 ぐ。不清會を樂。村の字と家跡の取。五柳隱士と唱。唐山司馬晋の
 時陶淵明と。賢人の門。五株の柳あり。則五柳先生と稱。故事の縁。

あると。有一長老の宣。以。性。愛。性。る。れ。過。世。て。男。兒。わ。た。一。個。の。女
 見。あ。り。その。名。と。何。と。い。ふ。ん。今。茲。の。十六。七。の。容。止。の。最。美。麗。心。標。三。鄙。る。縫
 刺。の。技。い。へ。ゆ。走。書。亦。愛。て。二。親。の。孝。順。筋。目。好。豪。家。の。い。て。娘。
 ほと。て。氷。人。を。の。い。せ。も。我。名。欲。あ。り。を。大。作。刀。祿。の。婿。と。擇。む。先。を。と。言。え
 たり。依。り。程。の。國。司。の。權。臣。木。造。内。匠。親。政。大。人。の。嫡。子。を。木。造。木。子。介。泰。勝。主。が
 件。の。稻。城。の。女。見。の。美。女。を。い。て。ま。知。り。好。色。の。癖。を。有。り。不。慮。胸。や。焦。を。けん
 いて。側。室。を。娶。り。て。利。を。と。誘。れ。り。と。大。作。刀。祿。の。い。ふ。と。女。見。を。售。り。時。勢。人。の
 立。女。の。遺。を。非。除。館。の。御。定。を。女。見。を。徵。さ。せ。あ。り。身。も。俱。に。召。返。され。り。
 伊。勢。半。國。と。賜。す。と。も。立。女。を。い。て。ま。知。り。況。木。造。泰。勝。が。父。と。妹。の。權。威。を。利。
 誘。引。ん。人。の。依。り。正。妻。と。も。婚。姻。を。允。せ。り。の。あ。り。と。辞。と。放。ち。敦。團。を。一切。美
 引。ぎ。け。れ。泰。勝。主。も。亦。怒。り。て。その。誤。り。を。せ。術。あり。必。思。ひ。を。見。せ。と。罵。り。狂。ひ。ぬ。



去とむとひつる声と密にさう。さき内所のさき。然る腹黒に主られ腹心の若黨
 幾名も秋機密を示し隙と張ひ丈作刀祢の外中折天庭小女兒と奪り各らう宿
 所小殿し措きよ。あとのさきさき。丈作刀祢の怨み堪む。次の日ヨと氣へ赴いて
 國司の愁訴稟せし。かゝる然とて證據をたれ。木造主の冤枉をとく。頼陳と物
 とせせ老爺の二の権臣の如御の館の側室まで引板屋殿と喚れ。この内
 外の幫助もあり。二の國司の薄情や惑せめて。證據をたれ。御信用あり。かゝる
 有司達訴人の論し。訟状を返せし。とむ。故小丈作刀祢の憤り胸に満て。その冤と叫
 べども。支聴まねり。甲斐あさき。所詮大河内へ推参し。愁訴のよと御曹司の歎た
 稟さし。萬が一。宜れ御沙汰のあらん。秋と宿所へ立も。亦大河内へさきさき。あさき
 その膳昏のさき。あさき。榎阪山の頭を山賊とど。所為さ秋憐む。丈作刀祢の獵
 や。胸膈と射徹されて。鮎てむ。さき。さき。さき。五柳村へ下知あり。村

長門を召よせられ尸骸と遞与し。あさき。五柳村の昇りて返して。送葬儀のおど。
 執りて支の済し。痛すれ。主の内儀。最愛の獨女の奪略られ。良人の横死。
 仇き。知る。泣明し。泣暮し。飯も薦ま。夜の目も合。一日二日と浩嘆。疲勞て病
 臥く在。さき。人の噂。あさき。却這扇の丈作刀祢の。這里の觀世音と信し。さき。
 折々。あさき。毎の。咱們が店舗。あさき。茶と喫。浮世雜談。あさき。話もあさき。
 樂し。あさき。れ。あさき。日。是を俺店舗。あさき。還る。あさき。あさき。あさき。
 件の横難起。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。
 内儀の参詣。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。
 情由。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。
 堪ぬ不平。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。
 る。庶吉の。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。あさき。

清白信士と寫されし小机安措く。花あり水あり常香盆の煙と共赤香あり。然然
 工と想像る小六を老婦より對ひて某の東國の處士達小六と喚做さるる當國
 司の舊縁あれ安否と伺ひ宣示與ふ今番這地來られたるも多氣の赴きけり
 人の噂よりて文作主人と名その退隱の緯の顛末今愛のる今番の横難主の
 横死の事までも大なる事知り某偏愚の性ごと不平の言と聴きたる怒氣胸の
 満て勝らざる然親疎の差別るその冤を伸恥と雪めて人の患を拂ふと必のり
 年弱ければいままその毛を試さるる安所の横難の某國司の舊縁あり對面の折時
 宜よりて訴稟さるる愛と命復さ救びやん汝是も亦知るべからん其の毛を商置せ
 くほ一宗徳の推參致したる實あるの事やと回て老婦の感涙の進むと
 推拭して人の凋落の折々の親族故舊も疎くるゆ。総々浮世の習俗なる尚杪
 弱き方々の人の噂と身の摘てと親切なる計い世の有る親子の幸いの上

ゆるべ既に推量せられど。奴家の主人稻城文作守延が妻老樹は過世きて
 男兒あり獨女小唄招後れて去歳よ今茲と過去同の執念深人の奪れ。性方々
 其首ぞと猜しても證據されれば秋心訴も連去親良人の殺る。仇の殺と思と
 その亦照驗あるさければ。朽しくも哀くも堪ぬ怨の身と措きて病煩ふの婦
 女子の甲斐なる年来信者觀世音の御名唱へ朝々祈念他夏もあるもの
 か。喪中おはれは拜まぬ神も憐れあひけん菩薩の特更感念の慈眼を回らして
 初々目も拭りぬ。身ほすも憑りた幫助より。奴家が女見返さるる事あり
 せむと再生の御恩おぼへて人傳ふ知れど。女兒の性方も良人の横死も方儘
 同さる趣も些も違ひはるか。恁の誇白の俺子と譽るふ似れども他幼稚は比
 ようて親孝順あり。浮る方々の疎くて。すべての女の子の異なり。義理の賢
 性も。那仇人の掠奪られ。日と経るとも身と儘さる。奴が觸て殺さる。正さる

志も恙もあらば。とらひ過一のせられはらと歎くと小六を慰難て皇和も漢土も今も昔も
 死と怕まむと標を守り身と潔くせし烈女節婦の戦世中尋られどもいづれ命あふ
 念那好色の毎の継美女子の強顔くとも心長閑く哄誘きて従へんと欲するもその
 心安んず。就て其言を氣取れて園司に見参せし折小と許稟きとも今愛の名
 三年さ知らず不便の具不知のいひと問へ老樹の點頭て宣趣あるは世の
 今茲十八歳也。応永二年乙亥の秋七月七日の誕生也。名は信夫と喚做しはらと
 小六の眉根と頻草ゆて沈吟する半晌なる。後うす頭を拾け。そそ又奇りたるも
 外某も亦義妹の名と信夫と喚做するも便是某と同庚あり。応永二年乙亥の秋七
 月七日の生れり。胎帯裏に寫着あり。とそ母親の折々いひも小六と稱し。底を留
 めて今不忘ま。ある女弟某と俱陸奥あり。時七才より。秋九月城隍神
 會と親んとて出り。人内經紀を攫れは往方も知らざる。他の二親甲乙も原

某が母も養育の恩浅く。後年養父親母と稱し。骨肉の異なる
 老夫婦忠誠艱苦の中果敢るや。いと惜しむ。其諸國を履歴の折信夫が生
 死存亡のそ尋極んと。いと久し。最も先礼する。とそ。今愛信夫
 刀柄の突の親子で。とそ。後と問へ老樹の胸と淡く。とそ。とそ。姑且心難くも
 涙吐む目を屎女瞬に。訝りあり。理り。今ゆ。隠るも。ゆ。既。推量せられ。信
 夫の突の女兒あり。俺亡夫の。とそ。拾ひ合ひ。養ひ。とそ。年。來。亦。あり。その
 故の任々。箇様。と。と。往の物語。及。及。縁由。原。時。応永八年の秋九月光
 樹の良人守延。北畠。仕。比陸奥の宝川。使。奉。八山。顛。と
 踏。越。後。洲。古。志。郡。不。毛。山。の。林。麓。路。と。と。六。七。許。一。個。の。女。子。の
 何。あ。ん。最。も。老。る。樹。杪。本。登。在。り。小。樹。下。の。一。個。の。旅。客
 うち。瞻。仰。降。よ。と。喚。ひ。連。の。招。む。せ。程。小。件。の。女。子。守。延。の。行。轡。あ

うら乗りと。鎧鎧櫃奇めく。伴當十名許を宿て。近着東海と直下。けん忽地声々鳴り
 立て。なごや刀祢們助けてなび。俺身のその夕人か拐されるものぞ。か。救せんと叫び。の
 登時稻城守延の。名。轎子と駐せ。原其奴の癖者なり。捕捕せんと。烈しき
 指揮の美の。ぬ。若黨中間走り。蒐り。那癖者。推捕稠んとせ。程。刀人
 うち。敬馬。此。此。怯。色。刀祢們。卒。小。去。那。女。子。の。俺。好。入。の。体
 比。心。乱。筋。死。口。走。療。治。の。為。小。醫。師。許。ゆ。ゆ。ん。と。格。駝
 下。り。困。下。情。由。と。頼。む。を。女。子。の。推。林。下。め。刀。祢。們。の。夕。人。に
 哀。を。請。て。已。さ。り。け。は。の。間。守。延。の。旅。轎。も。立。出。兵。們。其。奴。と。走。る。副
 才。這。那。の。言。語。心。對。竊。小。虚。実。を。猜。ま。る。女。子。の。愁。訴。の。実。小。疑。ひ。を。其

奴。小。の。猶。豫。ま。は。る。歎。と。敦。圍。る。再。度。の。指。揮。小。性。急。雄。の。若。黨。二。名。向。と
 心。走。蒐。刀。人。の。利。を。合。ん。と。競。る。又。這。緯。の。勢。ひ。免。さ。か。と。思。ひ
 けん。夕。人。と。吐。嗟。と。叫。び。掻。潜。り。突。退。甘。奪。地。逃。走。を。伴。當。們。の。足。脱。下
 と。く。大。家。齊。一。趕。ふ。程。小。這。里。の。山。脚。の。一。條。路。右。も。右。も。樹。林。隙。も。左
 身。を。横。容。小。谷。底。へ。忽。地。礮。と。滾。落。く。生。死。も。知。ら。ず。け。り。是。小。伴。當。們
 故。の。所。か。り。來。く。然。而。守。延。那。癖。者。が。千。仞。の。谷。へ。滾。落。る。為。体。を。執
 かな。守。延。听。く。領。に。然。も。て。あ。ら。め。回。せ。と。那。身。小。惡。吏。あ。れ。て。逃。く。深。谷。へ。陷
 だ。た。れ。の。惡。あ。ら。眞。罰。や。品。小。撲。骨。碎。け。必。即。死。せ。死。の。る。然。は。や。く
 這。処。の。人。家。遠。け。れ。樵。夫。の。外。小。人。の。往。還。の。罕。る。ん。今。那。女。子。を。救。ぎ。と。歎
 此。を。送。ま。い。不。便。の。る。り。の。以。へ。も。八。九。尺。も。足。指。も。る。巨。樹。の。杪。小。攀。登。らん



木公元柳のありむとあるり
 隠悪可無作
 暗裡有神明
 たりありありありありあり



有像第廿一

正容易くぞ。什麼も死と問試る。小兩具鹿と荷擔る奴隷の故郷の伊賀の
 山里も。樵薪を生活小あたる。在下小仰付られる。立地小那樹小登りて女の
 子と扶却まべ。との小守延勉び。そを幸ひる。正をか。落さぬ。小快せ。とのそ
 が。女の子も。緯佳々と。嘔り示し。主僕樹杪を向上。余程小件の奴
 隷。細引の麻索を。腰小挟。三榦を抱え。樹登ると。逸速く。瞬間樹杪小到て
 女の子の腰小麻索を。結着。下枝ま。小腋小抱え。下。其首より。徐小
 多。繰卸を。下る。若黨受合。て。を。抱え。守延の。身邊へ。を。扛居け。て
 女の子の。既小極ひを。ゆる。遠く。来小ける。牙の。所縁心の。と。く。思。へ。を。只。潜然。と。ち
 泣。し。守延。相。つ。慰。め。く。那。癖。者。の。做。一。趣。女。の。子。の。親。の。名。里。の。名。と。叮。寧。す。榦
 ま。の。女。の。子。の。や。な。く。涙。と。斂。め。て。俺。が。親。里。の。陸。奥。る。信。夫。郡。の。片。頭。関。と。渡。瀬。の。間
 る。浪。人。某。甲。の。女。見。る。り。今。茲。の。南。の。七。歳。の。名。を。信。夫。と。喚。ま。は。る。の。日。城

皇の神會の折四鄰の女の子小誘引れ。漫行を。き。ける。小。那。女。人。小。擧。ま。く。遠。く
 這。里。ま。も。俱。せ。ま。く。その。通。途。幾。番。も。脱。去。ま。く。思。ひ。か。ど。も。尺。骨。の。背。小。駝。ひ。の
 ち。然。る。縁。多。と。掖。に。推。並。び。此。由。由。甘。り。一。か。の。ま。の。ま。の。便。り。を。夜。の。亦
 側。小。臥。た。れ。せ。ん。術。あ。ら。ま。う。ち。泣。く。毎。小。那。女。人。が。慰。め。り。左。て。右。て。も。這。里。ま。も。来
 て。の。親。里。へ。の。還。り。か。り。の。俺。越。後。る。新。瀉。鉄。二。國。湊。へ。お。り。自。ら。て。愛。した。家。ま。奉
 公。せ。ん。の。折。俺。們。を。小。父。公。と。の。ひ。の。那。里。へ。人。皆。富。饒。あ。り。甘。好。東。西。多。く。あ。り
 美。衣。を。被。せ。ま。く。最。艶。妖。し。諸。姉。妹。と。共。侶。小。旦。一。昔。春。さ。の。憂。を。轉。し。く
 教。ひ。と。做。ま。樂。ま。の。の。う。む。む。を。泣。く。と。飲。勿。泣。そ。と。問。る。時。る。賺。し。餅。を
 買。ひ。て。取。せ。る。ど。し。け。の。越。路。小。入。ると。山。又。山。の。雲。分。れ。く。踰。々。来。ま。く。林。鹿。路
 る。去。向。小。老。山。樫。あり。俺。身。の。山。路。小。勞。れ。る。那。女。人。由。駝。疲。勞。ま。も。俺。身。を
 肩。小。ら。無。せ。る。既。小。件。の。樹。下。と。過。え。と。せ。程。小。東。差。る。大。枝。と。な。れ。の。間。の。遠

かきさくとも抗伸き携りらる。そのあゝえ携りゆき。身も那樹梢に脱れる人の翳
助等んぞと必ひつづぬ。程の料も差ひま。樹下を過れる折も那大枝
両もと拭たる勢ひは。挑合る如く肩とどまる。憶じ樹上を返登され。辛く毒
も脱まじ。又その上る大枝の推乃で。杪を登りたり。登時人驚馬課で。或
罵り或の賺し。樵登りんとをえ。も下より枝の届る。足は掛く。登り節も
や困果々目成る。任勞折り刀禰們の。山路をうち踰て來ませし。是
俺與つ天の助けと声ゆの。立を救ひて。水ゆゆり。ふも措れそ。那五人と深谷の底へ
趕渡して。拯せぬ。詞は述も聲か。さう。あゝの。御恩。俺親里へ送
らせぬ。いとと詩返ま。年才の倍方。怜れ。あゝの。情形。語言。見れ。連の。感
は守延と。俱ま。ち所。伴當。們。耳。と。側。駭。吐。嘆。し。世。亦。傳。る。り。形。家
女の子。が。奇。した。智。慧。才。学。の。ゆ。え。た。所。為。と。稱。け。け。は。

第十六回

不毛山林鹿路の義士童女と憐む
野井地藏堂の侠客驟雨と避く

さるやど。いぬま。の。の。の。よ。あり。今。あ。の。め。の。め。あ。の。れ。
介。程。小。稻。城。守。延。の。世。も。有。か。兒。神。童。女。の。奇。才。も。感。且。憐。と。背。を。擦。り。左。右。見。て。
適。愛。に。這。子。の。怜。れ。心。操。さ。鏢。致。さ。由。緒。あ。る。武。士。の。女。兒。も。う。ん。を。親。里。と。陸。
奥。も。信。夫。と。步。け。バ。路。の。程。這。里。も。最。も。遠。く。進。退。共。不。便。な。る。と。沈。吟。
あ。つ。更。小。女。の。子。も。ち。對。ひ。つ。や。信。夫。と。あ。ら。ん。と。聽。ね。俺。の。是。伊。勢。の。國。司。北。畠。殿。の。御。
内。人。稻。城。右。膳。守。延。と。喚。做。さ。る。の。お。と。宿。所。の。伊。勢。の。三。氣。の。あ。り。今。番。死。使。を。
奉。ア。と。奥。の。宝。川。へ。赴。け。る。帰。途。も。あ。れ。も。俺。私。の。旅。も。何。女。を。送。り。て。遠。路。と。
その。里。ま。で。の。適。が。つ。り。然。び。と。伴。當。所。役。も。あ。る。か。ら。分。ち。て。阿。女。を。送。り。て。その。
人。を。争。何。い。せ。所。詮。伊。勢。ま。で。還。り。と。よ。と。主。君。不。稟。の。あ。る。人。を。送。り。て。謀。り。て。
送。り。せ。ぬ。と。も。あ。る。べ。し。甚。麼。も。美。引。と。問。へ。信。夫。の。兩。袖。顔。を。掩。め。又。潜

然と泣く答難方と。屢回し居る中。以て絶え涙を斂めて。左ても右ても。單身六
かゝるが親里の天あかしく。くれども。小宣の御座も。けふより。御座も。憑き欲し。宜く計
らせぬひ。との守延領を。却伴當も。あるを。行轡の信夫を。乗て。その身を
歩行せ先小枝を。その宵歌店小着。折御宗信夫を。扶卸す。奴隷并小若黨
們を。芳しく賞禄を取。信夫を。身邊に。招かざる。御宗の。向女。親里の名を。信々
と。穿つる。その。父親の。名字を。知る。憶ふ。必由緒ある。武家の。退禄人。小そ。あつらふ
具小報よ。甚麻公。や。と。向を。信夫の。守。あへ。と。宜まる。と。同。當。言。小。父。々。々。の。奶。々
さ。ると。の。唱。へ。実。の。名。を。い。ひ。お。し。め。ら。れ。は。り。あ。は。れ。と。今。必。以。坐。と。今。返。さ。る。儂。身
あ。れ。ね。ど。要。さ。る。は。ら。は。ら。と。推。辞。を。守。延。意。衷。の。猜。し。と。信。ま。る。々。の。情。悽。の。子。の。取
は。ふ。その。親。の。名。も。氏。も。素。生。の。知。さ。る。と。の。あ。ら。ぬ。然。つ。と。隱。ま。故。あ。る。と。と。目。今。送。返
さ。ま。ぬ。その。身。の。安。危。不。定。名。告。が。親。の。羞。る。と。と。深。く。も。念。ふ。う。あ。ら。ん。是。亦。庸

常る。女の子の及ぶ。及ぶ。と。情々地。感と。再問。さ。あ。れ。も。眼。驗。ふ。る。書。記。の
あ。ら。ん。秋。と。思。へ。信。夫。が。腰。小。附。る。神。符。裏。を。解。し。て。さ。ふ。内。中。陸。奥。の。塩。雷。明
神。上。野。る。赤。城。明。神。武。藏。の。箕。田。八。幡。を。護。身。符。三。四。枚。と。紙。小。包。み。臍。帯。あ
ら。ん。乙。亥。年。乙。亥。の。秋。七。月。七。日。午。初。刺。生。ま。る。と。の。ま。を。寫。し。た。あ。れ。も。亦。を。親。と
知。る。よ。る。が。れ。故。の。如。く。裏。小。收。り。腰。小。返。し。と。一。日。二。日。と。も。程。小。愛。々。一。由。も。強。増。て
遂。小。捨。る。思。ひ。の。既。小。一。七。日。と。思。ふ。と。多。氣。の。城。小。歸。着。り。先。信。夫。小。伴。當。を
謀。る。宿。所。遣。し。守。延。の。城。小。登。り。返。命。と。言。え。あ。け。休。息。の。暇。を。賜。り。その。宵。宿。所。小
退。れ。妻。の。老。樹。小。憐。々。と。信。夫。が。言。と。説。示。し。他。の。女。子。は。あ。れ。今。よ。り。渾。家。儘
さ。る。宜。く。勤。り。あ。か。と。の。老。樹。の。愛。懼。び。て。才。を。感。ト。厄。を。憐。々。世。小。隔。も。さ。く。款。待。け
ら。信。夫。の。恩。義。を。感。と。主。人。夫。婦。と。慕。ひ。け。り。小。程。守。延。の。信。夫。が。解。の。趣。成
い。ま。主。君。小。咄。え。の。け。り。免。許。を。稟。る。陸。奥。へ。送。り。遣。さ。れ。と。姑。且。便。宜。を。現。ひ。小

主君北畠親能の改名のふより。守延獨との美を否きて面を記。諫める是より不測の罪をゆるぐ百日許禁錮められ居りて身の暇を賜りければ五柳村へ退隱あり。遂に又仕官を求めむ。任官信夫が陸奥の親を索ひて送々と送遣まのめらる。故の故守延の妻の老樹と商議あり。有一日信夫を召近して最不樂一けふ示まら。豫に阿女が親を索ねて故郷へ送り返えと。思ひの画餅とて。今の浮浪の人とあり。这里よりして陸奥まで。慮千三百里一里の旅を今ゆく企及一かかり。身又折もある。信あるも過世より。結ひ縁と思ひとて徐の時を待ねか。俺身貧くもぬとも。阿女一人の左右も老を鞠養ひく人と成ま。あめあめあめよかと諭せ。老樹も共侶のいと町寧小尉めて。知らず。俺們夫婦の過世きて見子も。寤寐不樂く寄る年波の後々さへおぼれて。心細く。年未深信またてまら。親音菩薩壇の利益を授きせめて。欣容止愛のまら。舟楫の才圃る。你と類

育つると思ひける幸ひ願ふ。今より俺們夫婦を親と思ひ。腹を借さ。実の女見と思ふべ。欽に就て又想像も。昔里の三親達の最痛う。打歎てを在は。其も胸苦し。死とさ。目今大人のわれど。猛可小禄を離さ。俺們的の不幸あり。む。你的の與中も幸ある。うへの薄命むと思ひ絶く。なや好子も听分よと。迭代の理り切。論を詞の真実心を。羈とるて。馮心。又悲し。あを八増き。蘇枋再涂の紅涙袖の餘りて苦し。あ。まの。堪ぬ身。ひとの秋かと思ひ。枯小用後れる。極子や霜も痛ぬ。朝の原の尾花が。裙の基。かくより。外術知。ぬ信夫の才頭。城拾は。言とけ。る。死論。の有か。死を。慚愧。一期の幸。で。信。あり。の。比。人。小。拐。され。る。俣。ふ。く。尚。ぬ。救。ひ。は。遇。ざ。り。せ。ぞ。浮。身。の。宿。の。年。長。て。宿。遊。女。の。了。せ。ら。ぬ。め。れ。非。除。故。御。へ。還。され。む。親。の。會。む。る。と。て。の。を。恨。と。思。ひ。願。ふ。女。見。と。思。食。て。ぬ。憐。愍。と。無。ぬ。御。杖。の。下。の。寄。ま。欲。を。願。へ。過。世。を。結。び。家。家。る。

家母ふてとるまれば俺身隔はるもの。と云。物守延老樹云云と慰めて
 口夢の玉殿の花と慈愛むと苟且もど。次の年より守延の日本と取らざる
 小老樹も亦縫刺の技を教く者。困る。年年来る。一かど二とて三を知る
 才女ある。性老実ま。何の二親の教と京てその智を誇り。萬吉又巴城。唐
 考順大なる。ゆりけ。髪の飾も身の皮も流行を好ま。驕奢を厭ふ。養
 母の補助ある。と云。年十五六及びて。京中もよく治る。か。美月。困
 花の面影あり。比より。那。這の風流男子。皆知り。婚嫁を欲する。幾名欲あり
 け。守延の婿と擇む。一切兼引。ゆり。是より不測の殃難。與り。信夫。困
 司の權臣。ゆり。木造。木。八。泰勝。の。奪略。られ。守延。横死。と。孤燈。の。油。竭。家
 中。老樹。一名。処。り。是。是。應。永。八。年。より。今。十九。年。小。至。る。ま。十二。年。の。ゆり。先。や。看
 官。小。示。さん。と。約。ゆ。て。茲。を。寫。せ。て。是。より。と。又。老。樹。が。小。六。を。對。ひ。て。云。云。と。信。夫。が。う。へ。成

説明を前回は継ぎ。説話煩雜。前後と照し。心と屬て。する。宛所。を。問。話
 除煩。却説。老樹。の。小。六。對。ひ。て。是。昔。の。ゆり。の。要。と。摘。録。と。其。て。説。話。の。哀。惜。限
 る。ゆり。の。涙。を。袖。に。推。拭。ひ。て。亡。夫。の。料。を。信。夫。を。養。ひ。し。ゆり。の。情。由。を。ゆり。と。そ
 舊。里。を。二。親。の。名。を。氏。と。知。る。ゆり。の。降。誕。辰。の。三。麻。葉。と。包。み。紙。を。寫。し。て。あ。る。を
 うり。も。忘。れ。ざ。し。と。告。げ。ゆり。の。ゆり。の。名。を。告。會。ま。ゆり。と。封。助。と。ゆり
 書。母。の。奇。遇。深。雪。ゆり。の。夜。に。贈。り。炭。の。ゆり。の。祈。り。ゆり。の。幸。多。く。又。痛。す。ゆり
 那。親。達。の。今。の。世。の。人。の。數。を。入。り。ゆり。の。後。竟。信。夫。が。听。く。甚。る。ゆり。の。世。の。實。の。父
 母。養。ひ。の。父。の。死。天。の。旅。衣。を。ゆり。の。着。ゆり。の。身。の。憂。事。の。知。り。ゆり。の。身。の。憂。事
 苦。ゆり。の。身。の。措。難。を。ゆり。の。不。便。や。ゆり。の。苦。苦。ゆり。の。愚。痴。不。疑。胸。の。痞。を。推。難。て
 涙。と。共。伏。沈。ゆり。の。小。六。を。敬。馬。且。尉。めて。原。來。ゆり。の。今。弱。ゆり。の。俺。女。弟。を。ゆり。の。よ。る。ゆり
 ゆり。の。命。の。恩。人。十二。年。の。養。育。の。實。の。親。も。異。る。ゆり。の。因。愛。情。義。感。深。ゆり。の。稻。城

主の生前の這欵びを演もせ、迭本本意稱ふべく、又那信夫三親の猶も這世に
 在るる報も知く、悦の眉も開くをたりの不更死、今この甲斐を人の像見
 たりける女弟も、仇の會うて生死の海に漂ふ无架身のもの、磯の瀬も易く世の轉
 變も悲しけれ、若くあれども危窮の折に料も来て一臂の力を竭き、定お世化の配
 劑是切りの幸、以初刀自の愛女の素生と知らぬ時、亦も寛苦とせ、堪えられ
 某既の兼愛の情と越小宗とく、あま支回ひ、信夫の死身の養女を、俺娘
 父母の女児も、一と方僅詳に知らるへ、怨初は十倍を、火も入るべく、刃も踏ん明日の
 夙早て、身を氣不赴、此件のも、許て言聽るとも、聴れども、信夫が所在を捜索せ
 合復さむ、已へく、然るる、歎のいと、敦圍さる、論くとを、義とて、勇む、杜土の
 誠心と現良茶め、老樹のや、な胸開けて、又云云と欵びの詞を、小六と推林、其
 頭の口誦、今ゆる要る、と、初更も、その、村長許、其て、歇店と、求むべし、と

父の老樹の頭、掉く、下直意の宿所、信夫の兄、と、まれば、親、か、又、通家、願ふ
 這里、天を明くと、翌快、氣赴、然る、夜飯、ま、せ、御高、才、行燈、と、せ
 の、茶、末、薦、ゆ、兒、伴、當、徒、然、り、けん、這方、召、せ、あ、と、小六、と、沈、吟、と、
 喪中、と、嫌、ふ、あ、ろ、老、弱、と、の、差、あり、と、い、と、單、身、致、安、居、で、い、ま、る、小、忌、憚、り、で、這里、小、曉
 さ、本、下、の、冠、丸、男、屢、胸、安、く、所、所、あり、を、饌、も、ま、欲、か、う、ね、が、今、宵、の、ま、く、相、別、れ、
 信夫、と、俱、と、ま、く、え、ん、折、り、管、待、を、受、く、れ、那、首、の、伴、の、小、廝、の、楫、取、度、吉、と、吸、徹
 たる、腹、心、の、家、僕、を、死、目、と、あ、り、い、と、い、は、老、樹、の、又、う、ろ、と、を、も、準、心、に、人、を、り、と、支、亦、紛、ま、
 等、雨、の、け、を、礼、を、丸、い、ひ、か、や、も、庶、吉、刀、袷、と、申、入、初、め、死、目、か、り、は、る、小、其、里、を
 酷く、端、近、に、這、方、へ、找、ま、の、ま、と、い、ひ、も、身、と、起、せ、庶、吉、の、恭、く、老、樹、の、對、以、安、否、を
 語、ね、く、不、幸、の、悔、と、陳、ま、と、ま、る、老、樹、も、亦、い、ひ、り、き、幫、助、と、い、は、る、欵、び、と、告、折、り、鐘
 鐘、と、初、更、の、鐘、声、を、え、け、の、登、時、小、六、と、身、と、起、下、來、て、老、樹、と、吸、り、別、を、告、と、る、外、面

先とせし。老樹の葉時と推林あり。本村出亡夫の弟子の親言あり。村長の宿所あり。
 有近なる侍る。一筆案内とある。そととある。小六を呼ぶ。幸ひ
 る。とね。那許の二美われ。兄弟母子と親。わ口。も。他人は知らず。は。咱們は任。
 のひ。と。詞。耳。示。て。刀。引。提。立。れ。度。吉。も。亦。遠。辞。別。主。從。二。蓋。の。
 笠。と。合。ひ。從。ひ。ゆ。老。樹。の。終。留。難。後。契。ら。共。侶。門。を。出。目。送。り。侍。而。
 小六を度吉とて。村長許赴。て。咱們の。國司。其。舊。縁。あり。東。國。も。あ。る。の。い。け。し。と。
 路。と。食。ひ。と。言。を。氣。も。と。思。ひ。か。も。初。夜。過。れ。不。便。大。宜。計。ひ。あ。る。と。と。村。長。
 あり。守。の。所。親。で。り。為。他。所。案。内。を。致。さ。及。び。在。下。御。宿。を。付。ん。這。方。杖。と。玉。
 へ。と。姓。名。向。ひ。疲。勞。と。勤。て。馳。て。客。房。不。迎。入。れ。夕。饑。と。薦。め。る。管。待。態。の。大。々。と。度。
 小六を辭。ひ。て。度吉と。俱。小。枕。就。ま。け。春。の。夜。短。く。て。向。明。と。せ。程。小六を。度。
 吉と。喚。覚。起。出。共。早。飯。と。薦。め。鳥。の。茂。林。と。離。比。村。長。辭。別。れ。て。言。を。氣。を。

投。い。程。既。城。下。程。近。郊。原。と。過。る。程。も。あ。れ。三。月。の。天。も。生。憎。小。花。ち。と。を。
 へ。驟。雨。の。忽。地。吹。と。降。そ。小。笠。宿。せ。家。の。あ。る。も。只。身。を。容。る。可。る。十。字。佛。堂。の。
 あり。けれ。主。僕。齊。一。走。入。り。風。急。猛。烈。く。り。侍。も。濕。吹。濡。ら。さ。る。小六を。い。
 堪。度。吉。の。戸。を。閉。と。急。せ。も。門。扇。見。る。れ。吹。扇。動。れ。推。開。れ。も。用。け。り。登。時。
 小六を。四。下。と。相。小。這。堂。内。皆。土。席。也。正。面。の。立。像。有。る。石。の。地。藏。菩。薩。の。の。仏。
 前。布。做。る。方。四。尺。許。一。箇。の。片。石。あり。け。是。究。竟。と。引。起。し。扇。發。扉。小。倚。
 楨。相。六。件。の。石。の。蹟。方。是。乾。井。と。深。一。丈。あ。る。下。什。麼。何。故。這。堂。の。井。あり。と。
 嘆。げ。度。吉。も。同。相。て。あ。る。か。思。ひ。侍。る。折。雨。小。趕。れ。這。十。字。佛。堂。に。寄。り。の。
 あり。の。徒。二。名。と。あ。り。て。扉。を。推。て。入。ん。と。せ。此。の。用。形。の。甲。乙。俱。に。訊。り。生。憎。や。
 け。未。限。り。戸。の。開。ぬ。殺。生。せ。る。ま。野。井。地。藏。の。嫌。せ。る。ま。あ。ら。や。と。の。伴。當。舌。ち。
 鳴。し。て。現。の。ま。の。理。あり。抑。這。里。の。昔。の。野。中。の。孤。井。あり。と。夜。行。を。急。旅。客。の。

るものゝ。欲りいふもそのより。今小解せぬ。稻城の他小官人の情人信夫
と申す。親る小喪れよ。那未通女が。知らば必然。支の障りふる。あも故
ある。甚だ。密めた。回へ。潜めた。そをも。知。疎。幽。御向。稻城守。延。女。見。を
會も復えんと。又。氣。ま。わ。り。と。訴。れ。も。俺。老。爺。と。引。板。屋。殿。の。威。勢。小。齒。を。立。
證據。を。ま。れ。と。訴。状。を。返。され。ま。後。安。似。れ。も。倘。大。河。内。へ。越。訴。し。御。曹
司。小。歎。息。京。ま。り。又。妙。多。の。所。あ。の。と。の。小。と。推。も。え。上。御。曹。司。の。正。室。腹。あ。り。引。板。屋
殿。と。睦。か。ら。這。美。よ。り。御。曹。司。の。儲。稻。城。奴。と。見。負。め。る。燈。の。塔。より。堤。崩。る。悔
の。泣。欲。測。こ。の。故。守。延。と。暗。敷。あ。ひ。い。亦。是。一。事。兩。用。ゆ。信。夫。も。山。賊。の
所。為。る。よ。小。公。做。で。故。意。の。美。と。報。知。せ。阿。女。心。と。轉。し。今。も。俺。小。從。の。俺。亦。阿
女。親。の。冤。家。と。索。の。捕。捕。為。小。怨。と。雪。む。べ。後。も。推。辞。欲。從。志。と。口。説。ぬ。考
女。の。え。封。助。小。よ。り。親。の。仇。を。獲。られ。ん。與。小。麻。非。せ。んと。深。く。も。計。を。め。い。ん。這。美。俺。

与記右馬の外の知らば。秘。外。の。洩。し。と。耳。は。示。さ。し。ち。所。敵。介。只
管。甘。心。し。て。兩。の。雨。存。り。と。管。ぬ。ま。ま。姑。且。餘。念。る。り。の。然。小。六。を。初。り。庶。吉。と。共
侶。不。這。惡。僕。們。が。密。談。と。听。つ。送。小。目。と。注。し。憤。然。と。怒。小。勝。を。惱。心。推。鎮
ゆ。御。向。小。扉。不。倚。掛。ける。石。と。情。々。地。の。合。除。せ。る。月。その。言。の。果。る。ま。小。節。は。充。り
圓。然。と。息。と。籠。と。在。り。ける。程。小。驟。雨。の。朝。と。終。と。の。ひ。け。ん。道。德。經。の。言。行。心。雨。の。歌。
雲。斂。り。朝。日。長。閑。小。井。り。け。り。介。程。小。外。面。の。兩。個。の。惡。黨。遠。く。濡。る。袂。を。絞。
て。さ。す。敵。介。の。搭。背。る。腹。割。筆。と。揺。抗。れ。又。那。一。個。の。若。當。黨。の。多。拭。を。て。角。を。
推。拭。ひ。つ。天。と。向。上。と。卒。ち。く。下。と。共。侶。不。走。去。と。せ。一。程。小。必。ひ。さ。り。堂。内。より。白
徒。等。と。喚。林。示。る。声。よ。り。多。く。戸。を。蹴。用。ひ。て。頭。れ。る。小。六。が。勢。以。宛。旋。風。の。回。り。如。く。驚。泥
足。か。へ。る。敵。介。城。項。髮。梳。を。引。よ。せ。て。研。小。合。て。三。三。回。粘。泥。の。中。へ。投。着。れ。る。俱。小。駭。く。若
黨。と。撲。地。と。蹴。仆。去。白。打。の。精。妙。蹴。れ。て。叫。ぶ。声。と。共。小。筋。斗。と。姑。且。息。も。吻。淡。仰

反り。登時小六を声高申す天子耳乎。人をして聴かむる自然の志報俺先をて
 この堂内小六を知らず。若君が不問談小六の悪事と具小六をば紛れも木造
 木二介泰勝小使る。奴們もその身の姓名色々名告りて。毎郷縛の手受
 とも罵懲せ。稍身を起し。兩個の悪黨本支小怯。眼と睜りて。昨日の青猴子
 他郷の知り本州を天飛ぶ鳥も疾視。限り己們が天命の威勢。漫犯して
 後悔する。初不意と敷れ。故其頭の石。怪け飛で。聊不覺を取。れも既小密
 支と竊写する。癖者れば。允一なる。親念せよ。両声小罵。左右の刀。見光りと
 抜閃めり。と。砍んと。找むと。引外。小六が修煉。おも。足も。乱して。取次。死刃。俱小
 打落されて。怯むと。蹴反。敷。小六。春の。牙。苦と。叫。二度の。打。播。伏。累り。と。又。起。ん
 と。も。せ。ざ。ら。ば。當。下。小。六。を。敵。介。が。腰。小。狭。き。獵。索。と。庶。吉。合。れ。と。い。そ。が。し。と。その。一。條
 と。若。黨。と。引。起。り。細。き。ハ。庶。吉。も。あ。る。ゆ。て。亦。一。條。の。索。と。と。疼。痛。小。嘔。く。敵

介が両手を繋ぎ結わりの小六を左見右見。這個奴隷と敵介と
 喚做まると俺既小那里のありと。知りたれども若黨奴が名の何と。快々
 名告れ偽り耳と。又鼻とも。刺ん。然。でも。い。ま。わ。名。告。ま。と。責。懲。さ。れ。て。若
 黨の腕を戦と。嗚乎。今。郎。君。允。さ。せ。あ。何。地。の。向。人。が。知。ね。ど。も。既。小。推。量。せ。れ
 去。如。く。在。下。の。木。造。の。家。小。仕。る。若。黨。也。山。勝。杉。内。と。喚。做。ま。り。之。朋。輩。弁。田。與。記
 右衛門と共侶。泰勝の密意と。稟。て。良。庶。吉。又。を。做。され。と。も。そ。を。俺。へ。干。ら。ぬ。主
 命。る。れ。ば。争。何。へ。せん。這。義。と。查。一。ぬ。か。と。勸。解。れ。ば。亦。敵。介。も。腕。を。額。と。つ。て。咱
 們。の。下。司。の。る。れ。ば。主。の。機。密。と。も。知。る。只。那。信。夫。を。竊。せ。折。人。數。不。加。え。れ
 の。願。文。放。遣。り。ぬ。ね。い。て。く。と。ち。陪。話。と。小。六。を。所。々。冷。笑。ひ。若。們。何。で。お
 罪。ろ。う。ん。や。俺。先。團。司。小。訴。く。那。里。の。沙。汰。小。儘。ま。一。姑。且。這。里。お。ま。か。と
 踏。く。然。而。庶。吉。小。趕。立。さ。せて。そ。の。俵。小。杉。内。と。敵。介。と。堂。内。小。牽。入。れ。て。乾。井。小



大和傳第二卷第三

九四

有像第一三



大和傳第二卷第三
 微音猶聞
 牆壁無耳
 いづれの所へ色あつらん

大和傳第二卷第三

